

令和5年度 第2回梅坪台地域会議 会議録

■ 日時 令和5年5月16日（火） 午後7時～午後8時15分

■ 場所 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ 出席者

<委員> 大谷 忠司 白井 満 杉浦 隆
鈴木 重久 長江 秀昭 松川 幸江
三岡 英隆 森田 實 諸岡 裕一
山村 史子 山本 孝宏 依田 武人

<交流館> 杉山 浩子（梅坪台交流館 館長）

<事務局> 岡本 裕之（地域支援課 課長） 松下 誠（地域支援課 副課長）
塚田 征弘（地域支援課 担当長） 谷口 明日菜（地域支援課 主事）

■ 内容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 地域保健課（梅坪台地区 新担当者）あいさつ
- 4 報告・協議事項

（1）地区コミュニティ会議関係について（報告）

（2）諮問・答申（協議）

議題・現状に対する具体的な施策についてのグループディスカッション

■ 議事内容（要約）

4（1）地区コミュニティ会議関係について（報告）

・長江委員から、各委員会やふれあいまつりに向けた動きについて報告があった。

青少年委員会	6月に行う梅の販売に向けて、梅坪台中学校の生徒とともに作業を進めている。
福祉・健康委員会	うめつぼだい健康づくりマップに掲載する情報を集めている。
広報委員会	梅の販売について取材を行っている。
まちづくり委員会	避難所設営マニュアルを作成している。
ふれあいまつり	・11月5日（日）に開催予定 ・交流館だけではなく、中央公園や小学校など、場所を広げて実施したいと考えている。 ・40周年記念で作成したマスコットキャラクター「うめっぴー」を様々な資料に掲載していきたい。 また、掲載する資料に応じて、いろんなポーズの「うめっぴー」を登場させたい。

(2) 諮問・答申（協議）

前回の会議で挙げられた「高齢者の社会参加の促進に関する取組」における課題・現状を解決するための具体的な取組についてグループディスカッションを行い、別紙のとおり意見が挙げられた。

【結論】

次回の地域会議では、今回のグループディスカッションで挙げられた具体的な取組をまとめた答申書（案）について、協議を行う。

■ 今後の予定

令和5年度第3回梅坪台地域会議

6月13日（火）午後7時～梅坪台交流館大会議室にて

A グループ

課題①役をやりたくない

- ・役をやらなくてもよい環境を作った上で、活動に参加してもらう。
- ・「常に貢献している」と感じ、自分に価値があると思い、活動にしてもらう。
- ・人に喜んでもらう経験をしてもらう。
- ・役を受けた人が景品などをもらえるようにする。
- ・リーダー研修を実施する。
- ・近所でのサークルを作る。

課題②健康や体力に自信がない・活動についていけない

- ・自分のできる範囲内の活動で十分であると思ってもらう。
- ・まずはやってみてから考えることができるような環境を作る。
- ・少しずつ、一歩ずつ活動してもらう。
- ・様々な人の体力に合わせた活動を作る。
- ・グラウンドゴルフの活用。
- ・日なたぼっこができたり、散歩中に休憩できる場所を多く作るなどして、外に出てもらうきっかけを増やす。
- ・個人中心の作業する場ではあるものの、何人かで集まることができるような畑を貸し出す。
- ・自分に合った活動を見つけ、参加してもらう。

課題③活動に関する情報が得られない

- ・活動団体内でリーダーを決め、いろいろな人に伝達してもらう。
- ・各活動団体の情報発信方法を改善し、より多くの住民に届くように情報を積極的に発信する。

課題④移動手段がない

- ・助け合う。
- ・移動が困難な人でも集いの場などに参加できるボランティア輸送の仕組みの整備

課題⑤旧住人に溶け込めない・関心や興味が持てない

- ・市民の興味があるものやニーズを調べる。

Bグループ

課題①人と関わりたくない

- ・参加することにより、景品をもらえるようにする。
- ・おひとり様スペースを作る。
- ・自宅でできることや、日常生活で社会参加ができるような場を提供する。
- ・強制的に組織に加入させる。

課題②興味がわからない

- ・興味があるものをヒアリングする。
- ・自分でグループを作る。
- ・自分の好きなことをアピールする会を作る。
- ・お試し会を多く行い、参加してもらおう。

課題③時間の制約

- ・朝の部・昼の部・夜の部を作る。
- ・いろんな時間帯で参加できるように環境を整備する。
- ・オンライン参加できるようにするなど、開催方法を工夫する。

課題④活動のPRが不足している

- ・高齢者用の回覧板を作る。
- ・市の広報誌で強くPRする。
- ・おさそいメールを送付する。
- ・スーパーやドラッグストア、病院などにチラシを配架する。
- ・情報を自ら取得することが難しい高齢者の方などに向けて、ポスト投函を行う。
- ・活字を見ない人も多いため、人が直接チラシを配るなどしてアプローチする。

Cグループ

課題①社会参加の経験不足

○職場の後押し

- ・企業や役所が地域貢献活動を後押しする。(休暇など)
- ・在職中であっても、地域の活動へ参加するように誘引する。
- ・会社(企業・事業主)へのPR

○現役時代でも自分から積極的に参加

- ・現役時代から、自治区活動などに参加する。
- ・ボランティア活動の場を増やす。

○公的な後押し

- ・青年会・女性会・子ども会の活性化のため、助成金を増やす。

課題②仲間や知り合いがない

○職場グループの継続

職場単位の自主グループを活性化し、退職後も継続できるようにする。

課題③情報不足

○高齢者向けの情報

- ・病院・薬局で健康づくり講座、グループを紹介する。
- ・広報とよたに掲載されている情報の文字を大きくする、活動情報の内容・場所など分かりやすく記載する。
- ・市が高齢者向けの活動を紹介するHPを作成する。

○市による周知方法の工夫

- ・全交流館の自主グループをまとめたHPを作成する。

○体験会

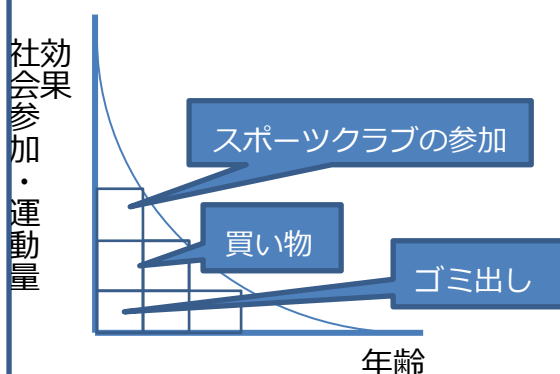
- ・交流館・社会福祉協議会など、体験会・説明会を開催する。

○個別声かけ

- ・住民同士で声掛けを行う。

その他

○社会参加効果の見える化



・「この年代であれば、これくらいの活動をすれば十分」というような社会参加の目安を作成し、社会参加のハードルを下げる。

➡意識づけする・日々の習慣にする

➡最終的に、介護予防・健康寿命を延ばすことにつながる。